

高崎市地域福祉通信

第6回地域福祉市民会議の開催

9月20日（金）午前10時から高崎市総合保健センター（高松町）第4会議室において、第6回地域福祉市民会議を開催し、34人の委員の方々にご出席いただきました。

当日は、アドバイザー講話後、グループワークを行い、アドバイザーに講評をいただきました。

第6回地域福祉市民会議の主な内容

●小金澤アドバイザーによる講話

- ・地域の交流拠点づくりのため、場所の選定や確保の方法について、具体的に議論してもらいたい。
- ・可能な限り、地域住民の多くが身近だと感じられる場所を選定することが必要である。
- ・高齢者が徒歩で行動できる範囲は約500メートルと言われており、それ以上は遠く感じられる。
- ・健康状態によっては、80～100メートルしか移動できないという方もいると思う。
- ・気軽に集える場をつくること、その場を継続していくための手法について検討が必要である。
- ・専門職や行政は、対象者の状況は理解していても、地域の実情はあまり良くわかっていないので、実情を良く知っている地域住民の方々から教えてもらうことが必要である。
- ・活発な意見交換が必要なので、できるだけ多くの意見を出し合って欲しい。



アドバイザー講話の様子

●グループワーク（意見交換）の結果について

第6回地域福祉市民会議全体テーマ

「いつまでも元気で暮らせるふれあいのある福祉のまちづくり」

グループNo.	個別テーマ
	グループワークでの主な意見
グループ1	多世代が集うふれあいの拠点づくりのために
	・都市部と山間部で、対応方法を変える必要がある ・ふれあいの拠点は、人や組織、イベントを通じて生まれていくものとして考える必要がある など

グループ2	地域の交流の場をいかに確保するか
	・長寿センター、公民館、集会所、スポーツ広場（農地を活用）、空き家、小学校、地域の福祉施設の部屋などを交流の場として活用する ・鍵の管理やスケジュール調整などについて具体的な検討が必要 など
グループ3	地域での交流・活動拠点の確保に関する取り組み
	・次のような場所を対象として、地域の常設拠点を作ることが必要（住民センター、地区集会所、県営住宅の集会所、学校や公園・病院、空き家 など）
グループ4	地域の交流を活発化するための場づくりに関する取り組み
	・地域の交流を活発化するための場としては、地区公民館、集会所、長寿センター、空き家、空き地、小学校などの活用が考えられる ・休耕地を地域のみんなでの野菜作りの場としてみる など
グループ5	誰もが孤立せず、ふれあいがもてる地域づくりを考える
	・体は健康だが、外出したくないという人へ、外出のきっかけづくりとなるアプローチをしていくことが必要である ・アプローチの方法と継続性が重要である など

●小金澤アドバイザーによるグループワーク講評

- ・地域の交流拠点づくりについて、具体的な手法や内容が議論されたと思う。
- ・拠点の候補についても、かなりの数があげられていた。
- ・鍵の管理やスケジュール調整など、かなり踏み込んだ議論がされたことも良いと思う。
- ・実行に移せそうなものは、すぐにでもやるべきではないか。
- ・小学校をふれあい拠点にするという意見が出ていた。地域の実情に応じて拠点は設定されるべきであり、屋根の有無にこだわる必要は無い。公園や農地なども良い意見だと思う。
- ・今日の意見交換の結果を地域に持ち帰り、ぜひ地域福祉の推進に生かして欲しい。



グループワークの様子



アドバイザー講評の様子